住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会 News

2023.7.28.FRI　No.147

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047　仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

宮城４病院再編「精神医療センターをがんセンター西側に」名取の地元住民、県に３度目の要望を知事及び審議会に提出

令和5年7月26日

宮城県精神保健福祉審議会　御中

県立精神医療センター招致会議

県立精神医療センター移転計画について

拝啓、日頃より障害者福祉へのご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

7月23日（日）河北新報「東北労災病院、宮城県立精神医療センターの移転合築問題　9月にも基本合意締結か」報道には大変驚きました。

私ども県立精神医療センター招致会議では、令和2年7月29日及び令和5年2月3日に県庁を訪問、招致要望書を提出させて頂いた経緯があります。

この度、三回目の要望書提出につきましては、本年度宮城県精神保健福祉審議会（令和5年5月31日）資料「資料_県立精神医療センターの今後のあり方について」について、現在の地権者の同意の現状が反映されていないものになっております。

これまでの経緯を顧みますと、ご存知の通り、測量調査等は「土地、立ち入りのお願い文」に従い、既に、地質、環境、遺跡発掘は完了、そこに、相当の費用も発生、基本設計は終え、新病院イメージ模型写真を添えて、地域に建て替え事業説明会として開催されたのが平成27年3月10日でした。

その後、平成28年11月11日付で地権者の一部から同意が得られないとの理由から、建設断念の書面が、地域の皆様へとして配布されましたが、現在、当時同意が得られなかった地権者が代替わりし、譲渡に前向きな意向を示している事実も確認できております。

精神医療センターは昭和32年に県立名取病院として現在地に開院、長きにわたり地元に定着、様々な形で県内精神医療の基幹病院として診療を行っています。既に、開院後66年余りを経過、建物の老朽化は言うまでもなく、建て替えは急務を要する状況にあり、本移転計画が、がんセンター西側と報じられたのは平成24年7月8日、以来10年もの時が流れているわけです。今後も県立がんセンターと連携できるように、そして現施設の医療従事者、それに付随する施設、患者の大半が名取、太白区に居住していることを考慮した場合、県の中心に位置するからと、安易に富谷移転は誰もが納得できるものではなく、事業費等を含めて得策ではありません。

現、がんセンター一帯は津波の心配はなく、必要面積を十分に満たし、岩盤で地盤はよく、緑地に囲まれた閑静で病院としての環境に恵まれ、アクセスもJR名取駅から約1,5㎞と程近くに位置し、令和5年10月1日からはバス路線見直しで現在24便から94便に増え県立がんセンター近辺へのアクセスが一段と向上し利便性が向上します。

周辺住民としては、当初から精神医療への理解は変わることなく、長年培ってきた＜精神障害にも対応した地域包括ケアシステム＞の継続できる環境にあります。

つきましては、県立精神医療センターを現、がんセンターと一体で、その西側移転を求めるものです。

敬具

令和５年度
宮城県精神保健福祉審議会（第２回）

■ と き　令和5年8月1日（火）
　　午後6時30分から午後8時まで
■ 場 所　仙台市青葉区本町三丁目8番1号
　　宮城県行政庁舎9階 第一会議室
■ 議 題　第8次宮城県地域医療計画（精神疾患）について
■ 傍聴定員　10名

仙台市長記者会見
（2023年7月25日）
「4病院再編等について」
https://youtu.be/SgM5mq04Uts?t=1240

●Q／　仙台医療圏の4病院の再編について伺いたいのですけれども、一部報道とかでも出ていましたけれども、県の方で精神医療センターと（東北）労災病院については、基本合意を9月をめどにというようなお話を関係者に示しているようなのですけれども、市長としてこういったスケジュール感についてご把握はありますでしょうか。

■ 郡市長／　先月ぐらいの知事の会見の中でそのようなこともおっしゃられていたというふうに記憶をしておりますけれども、やはり、当事者の方や関係者の声を聴くというふうにご説明もされているわけですが、いまだ関係者、当事者の方々、市民、県民の皆さま方の理解を得られたかというと、そうとは言い難いのではないかというふうに思っております。仮にこのような状況の中で基本合意に至るということになれば、本市としてはそれは受け入れ難いというふうにも考えるわけで、これまでも繰り返し申し上げておりますとおり、県におかれては基本合意をいつまでにということではなくて、しっかりと関係者の声をお聴きになって、それに真摯に耳を傾けてくださって、丁寧なご説明を行った上で慎重に判断をしていただきたいと考えています。

●Q／　今の基本合意を9月にというお話、先月くらいの知事の会見で（あった）というようなお話であったのですけれども、（知事から）直接というか、何か市長（の方に）そういう会見とかではなく（あったのでしょうか）。

■ 郡市長／　私は直接知事からそういうお話は聞いてはおりません。知事も会見では9月議会あるいは11月議会、それが駄目なら2月議会というようなお話もなさっていたので、早ければそういうことなのかもしれませんけれども、それにしてもやはり慎重に進めていただきたいというふうに思っているというところです。

●Q／　知事から聞いていないというのは、事務方同士でもそういう話が仙台市としては把握がないという、そういう整理でいいですか。

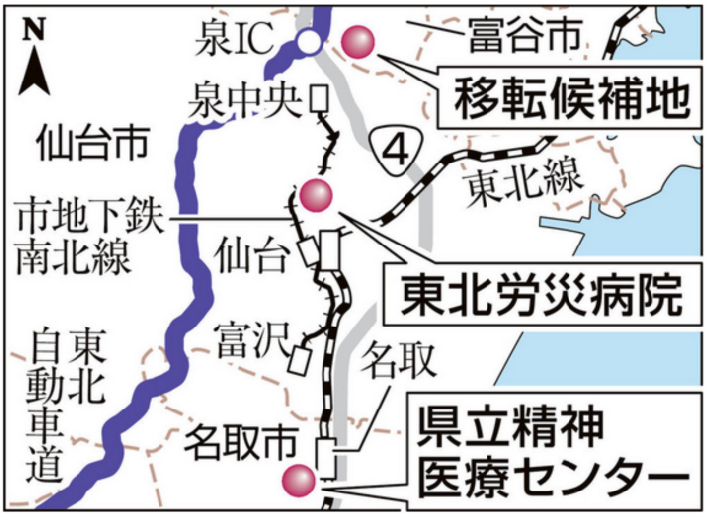
■ 郡市長／　事務方は今日は来ていませんけれども、事務方にもそういうような話、詳しく入っているとは私は認識をしておりません。

（注／報道記事転載の為、組織内資料扱）

【独自】東北労災病院、宮城県立精神医療センターの移転合築問題 9月にも基本合意締結か

https://kahoku.news/articles/20230722khn000025.html

2023年7月23日 河北新報



宮城県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想で、県が、東北労災病院（仙台市青葉区）の運営主体と協議を続けている基本合意について、9月をめどに締結を目指していることが分かった。県が内部資料を作成し、関係者に方針を示した。

［仙台医療圏4病院の再編構想］　救急や周産期医療が仙台市に集中しているとして仙台赤十字病院と宮城県立がんセンターを統合して名取市に、東北労災病院と県立精神医療センターを合築して富谷市に移転させる県の構想。主導する県はセンター移転の理由に、県全体の精神医療の体制強化や身体合併症への対応を挙げる。

東北労災病院と県立精神医療センター（名取市）を富谷市に移転して新病院を合築する構想を巡っては、精神科医療関係者や当事者から移転反対や懸念の声が相次ぐ。県が想定通りに基本合意を急げば、こうした声が十分に吸い上げられない恐れがある。

5月下旬時点の内部資料によると、県は東北労災病院、センター側とそれぞれ面談した上で、身体合併症患者への対応や診療報酬算定ルールなど連携に向けた3者間協議を3回実施する計画。基本合意の目標を9月末までと想定する。

7月上旬に示された別の内部資料でも、9月を基本合意に向けた「最終的な確認」の時期と記している。

県医療政策課は「詰めなければならない協議事項があり、9月で確定したわけではない。できるだけ早く基本合意を目指す」と説明する。

県は構想に関し、2022年度中の基本合意を目指したが、関係先との協議が進まず、今年2月に協議事項の確認書を取り交わして事実上先送りしていた。

「無理だ」現場からは異論相次ぐ　職員アンケートも反対意見が8割弱

仙台医療圏4病院の再編構想で宮城県立精神医療センターを富谷市に移転した場合の医療体制を巡り、県が委託した医療コンサルタントの案が現実的でないと、センター側から異論が出ていることが分かった。名取市に病棟のない精神科外来を設けるなどとする内容に、現場から強い懸念が示された形だ。

関係者によると、県と医療コンサルタントの担当者、精神医療センターの角藤芳久院長ら幹部の計約15人が6日に協議。センター側出席者から「無理だ」などと異議が相次いだ。

4月に公表されたコンサルの報告書は、構想に基づき仙台赤十字病院（仙台市太白区）と県立がんセンター（名取市）を統合し名取市に整備する新病院に、市以南の外来患者を受け入れる精神科外来を設ける案を盛り込んだ。

6日の協議では、院長を除くセンター側出席者から「南の新病院の外来で興奮している患者をどうやって北のセンター病棟に運ぶのか」「入退院を繰り返す重症患者を病棟なしで診るのは無理」との意見が出た。

センターでは現在、興奮状態の重症患者が外来を訪れれば速やかに入院させている。仮に新病院に精神科外来ができても、重症患者を約20キロ北の富谷市の移転先に車で運ぶのは「リスクが高い」（医療従事者）という。

協議では「県南の患者が入院する所がなくなる。なぜうちの病院が移転するのか分からない」といった趣旨の発言もあった。

報告書によると、移転後の精神医療センターは「夜間・休日を中心とした精神科救急医療」を担い、日中、県北の患者は身体合併症しか救急入院させない。

ある医療従事者は「県北で精神科医療を担う民間病院への『民業圧迫』を避けるため、県立病院に手かせ足かせをはめる無理な計画だ」と反発する。

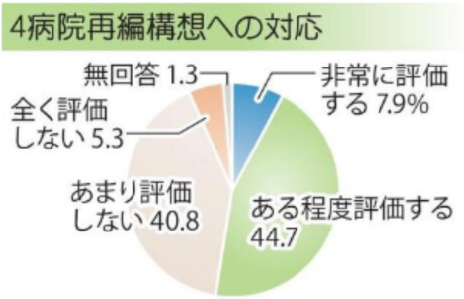
センターを運営する県立病院機構が昨年6月に実施した職員アンケートでは、富谷市移転に「反対」「どちらかと言えば反対」が計77・6％に上り、賛成意見は8・2％にとどまった。

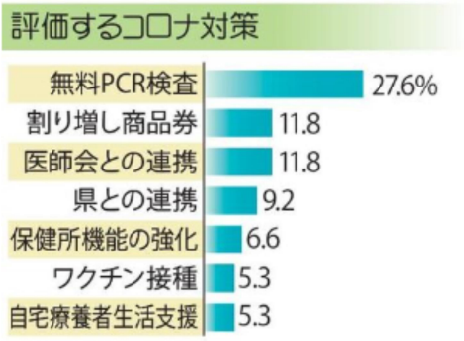
仙台市議選
候補者に聞く
アンケートから

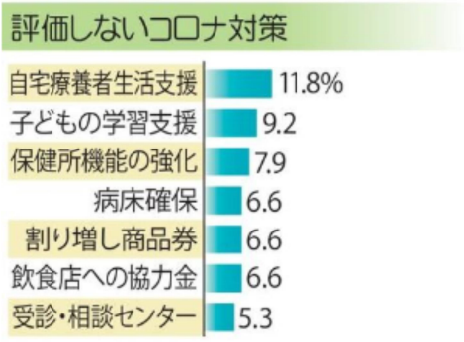
仙台市議選　立候補76人は郡市長をどう評価する？
「候補者に聞く」（中）4病院再編

https://kahoku.news/articles/20230723khn000056.html

2023年7月24日　河北新報







市の姿勢を候補者の半数超が支持

宮城県が主導する仙台医療圏の4病院再編は仙台赤十字病院（仙台市太白区）を名取市、東北労災病院（青葉区）を富谷市に、それぞれ移転させる構想を描く。地域医療に影響しかねない動きに、仙台市民も注視する。

河北新報社とNPO法人メディアージ（仙台市）が6月、無料通信アプリLINE（ライン）の河北新報公式アカウント登録者や会員制ニュースサイト「河北新報オンライン」利用者に行った共同調査でも、再編構想への関心が高かった。

「具体案示すべき」という意見も

この状況を踏まえ、市議選（30日投開票）の候補者全76人に、再編構想を巡る市の対応について尋ねた。「非常に評価する」「ある程度評価する」は計40人と半数を超えた。「あまり評価しない」「全く評価しない」は計35人。無回答は1人だった。

立候補した現職51人の回答を見ると、郡和子市長を支持する「市政与党」会派の6割以上が高評価を下した一方、市長と距離を置く勢力は市の対応を不十分と捉えた。

選挙戦では同じ自民党公認でも、与党会派の自由民主党（14人）は9人が市の対応を支持したが、市政に「是々非々」で臨むせんだい自民党（7人）で評価した候補はいなかった。

元議員2人と新人23人の計25人のうち、評価は11人にとどまり、評価しないと答えた14人を下回った。

回答理由を求めたところ、評価した候補は市が医療体制への影響を考慮し、県に問題提起する姿勢を好意的に受け止めた。評価しない理由では「市として具体的な医療体制を（県に）示すべきだ」といった記述が見られた。

評価する施策に「無料PCR検査」

現任期は新型コロナウイルスへの対策に追われた。候補者に、市が取り組んだコロナ関連施策への評価も聞いた。評価する施策は「無料PCR検査」が21人で最多。商店街の支援施策「割り増し商品券」、「医師会との連携」が各9人だった。

自民現職は「苦しい時期の商品券で一時的でも活力が戻り、元気が回復した」と答えた。共産党の多くは「市民の声に応え、必要と判断した施策を進めた」と理解を示した。

評価しない施策は「自宅療養者生活支援」が9人で最も多かった。「子どもの学習支援」（7人）「保健所機能の強化」（6人）と続いた。感染急拡大時に営業時間の短縮要請に応じた場合に支払う「飲食店への協力金」は現職1人、新人4人の計5人が選んだ。

2023年7月26日 河北新報

9月基本合意に難色

仙台市長 4病院再編 県にくぎ

郡和子仙台市長は25日の定例記者会見で、仙台医療圏4病院再編構想を主導する県に対し「現状のままで（病院の運営主体との）基本合意に至ることになれば、受け入れ難い」とくぎを刺した。

県は東北労災病院（青葉区）の運営主体との基本合意について、9月をめどに締結を目指す。郡市長は「市民や患者の理解を得られたとは言い難い。『いつまでに』ということではなく、丁寧な説明と慎重な判断を求める」と市の立場を改めて強調した。

マイナンバーのひも付けミスによる他人口座への誤入金が全国で初めて埼玉県所沢市で確認された。「デジタル庁が直接、対象者とやりとりするため、市内の状況は把握できない」と説明。個人情報とのひも付け作業の実態に関する「総点検」にも言及し、「市民の不安を払拭できるよう適切に対応する」と述べた。

囲碁の一力遼棋聖（仙台市出身）が本因坊を初めて奪取した。郡市長は「最も歴史のあるタイトルを最終局で勝ち得て、本当に素晴らしい。三大タイトルの残る名人を目指して頑張ってほしい」と祝福した。

前回 自民候補応援に奔走　宮城知事 今回は静観

30日投開票の仙台市議選で、村井嘉浩宮城県知事が2019年の前回とは打って変わり、静観の構えを見せている。争点の一つである県主導の仙台医療圏4病院の再編構想では、反対を鮮明にする古巣・自民党の候補者もいて、積極的に動けない事情もあるようだ。4年前から一転、応援要請も減り、海外を含め県外での公務に集中している。

（14・15面に関連記事）

’23 仙台市議選

21日の告示後、村井知事は県外への出張が立て込んだ。24～26日は山梨県であった全国知事会議に出席し、その足でインドネシアへ向かった。人材不足に対応する覚書を現地政府と結んで30日に帰国する。

ある自民県連関係者は「計算ずくで公務日程を組んだように映る」と読む。

村井知事は05年の知事就任以降、3度あった市議選では積極的な支援を控えたが、19年はお盆休みを返上して自民候補の応援に回った。告示後には複数の候補者のマイクを握り、各陣営は「知事が来てくれて盛り上がった」と歓迎した。

4年前から一転、応援依頼が減った村井知事。県外や海外の公務に集中する

4病院再編絡み動けず？

当時の定例記者会見では「（応援の）要請が非常に多かった」と説明したが、今回は様相が一変。依頼は1件にとどまり「公務を理由に断った」（村井知事）という。

4病院再編構想は東北労災病院（青葉区）と県立精神医療センター（名取市）を合築して富谷市に、仙台赤十字病院（太白区）と県立がんセンター（名取市）を統合して名取市に、それぞれ新病院を整備する。

二つの病院が仙台市外に移ることを警戒する有権者は多く、候補者の半数超も慎重な対応を求める郡和子市長の姿勢を評価する。

ある党県連関係者は「今回は村井知事に応援を求めるのは難しい状況だ」と候補者の思いを代弁する。実際、街頭演説や個人演説会で、県の姿勢を批判する自民候補は少なくない。

「4病院再編の問題で、仙台市内では知事との2連ポスターを作りにくくなってきている」とある地方議員。「知事も批判されるのを分かっていて応援に行かないだろう」と話す。

2023年7月27日　河北新報

精神医療センターをがんセンター西側に

「名取で包括ケア継続」

地元住民、県に3度目要望

県が主導する仙台医療圏4病院の再編構想で、富谷市への移転が検討されている県立精神医療センター（名取市）について、県立がんセンター（同）の周辺住民が26日、がんセンター西側への移転を求める要望書を県に提出した。要望は3度目。関係者によると、2月の2度目の要望以降に、新たに賛同の意向を確認した地権者もいるという。

村井嘉浩知事と県精神保健福祉審議会に宛てた要望書は、精神医療センターの今後に関する県の説明を「現在の地権者の同意の現状が反映されていない」と指摘。「長年培った精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを継続できる」と名取市での存続を訴えた。

精神医療センターを巡っては、県の有識者検討会が2010年に「全面改築」を提言。県はがんセンター西側山林を移転候補地としたが用地交渉がまとまらず、16年に断念した。その後の地権者の代替わりなどを受け、地元住民が20年7月と今年2月に移転に関する要望書を提出していた。

寛谷移転を念頭に置く県はがんセンター西側の土地に関し「一部地権者の同意しか確認されていない。埋蔵文化財調査などの影響で開院スケジュールが長期化する」と主張している。

地元住民の1人は「同意する地権者は一部ではなく大半であり、名取で十分に建設可能だ」と話した。